

中期経営3力年計画

『New Progress (NP) - 8』

{2006年度～2008年度}

2006年 3月 2日
不二チ力株式会社

～ 目 次 ～

	ページ
・現中期経営計画の総括	1
・新中期経営計画『NP - 8』の概要	7
1. 経営ビジョン	7
2. 新中期経営計画の位置づけ	8
3. 経営基本方針	9
4. 連結経営数値目標	10
5. 基本戦略の概要	11
6. 事業戦略の概要	13
7. ガバナンス戦略の概要	21
8. その他指標	23
9. 中長期イメージ	24

・現中期経営計画の総括

1. 『飛躍05』（2003年度～2005年度）

- ・「集中と強化」による事業力向上
- ・収益の高位安定化

復配体制の確立

4つの強化
トップシェア・シェア優位事業
の維持・拡大
新事業の創出・育成
組織力、営業力の強化
アジア戦略の強化

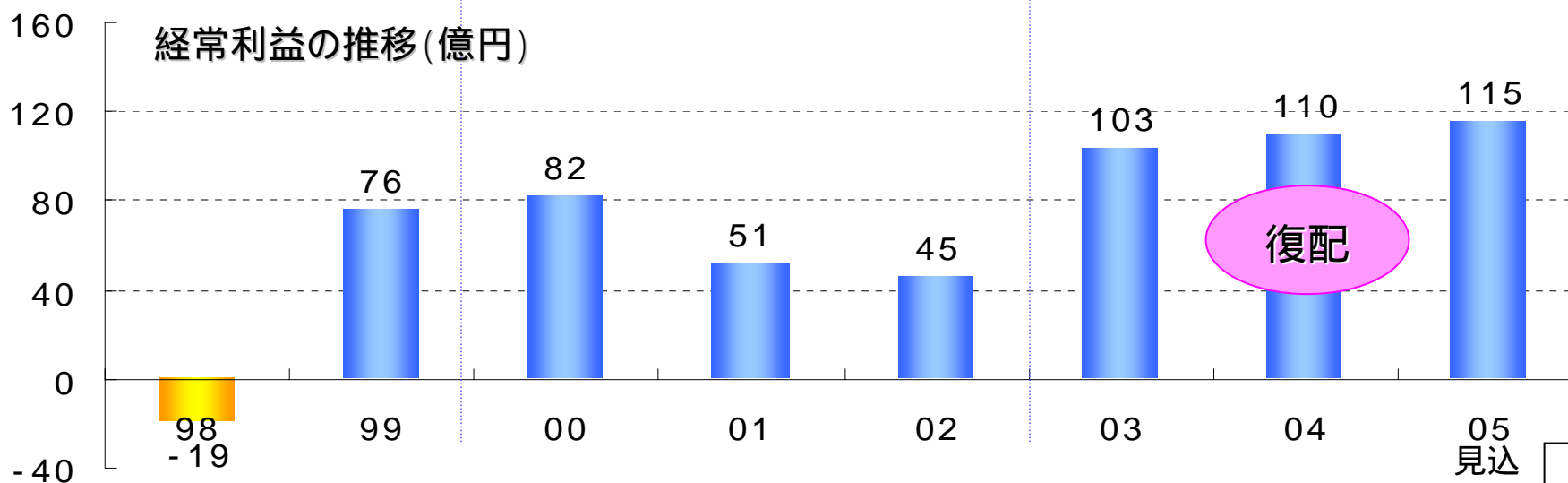
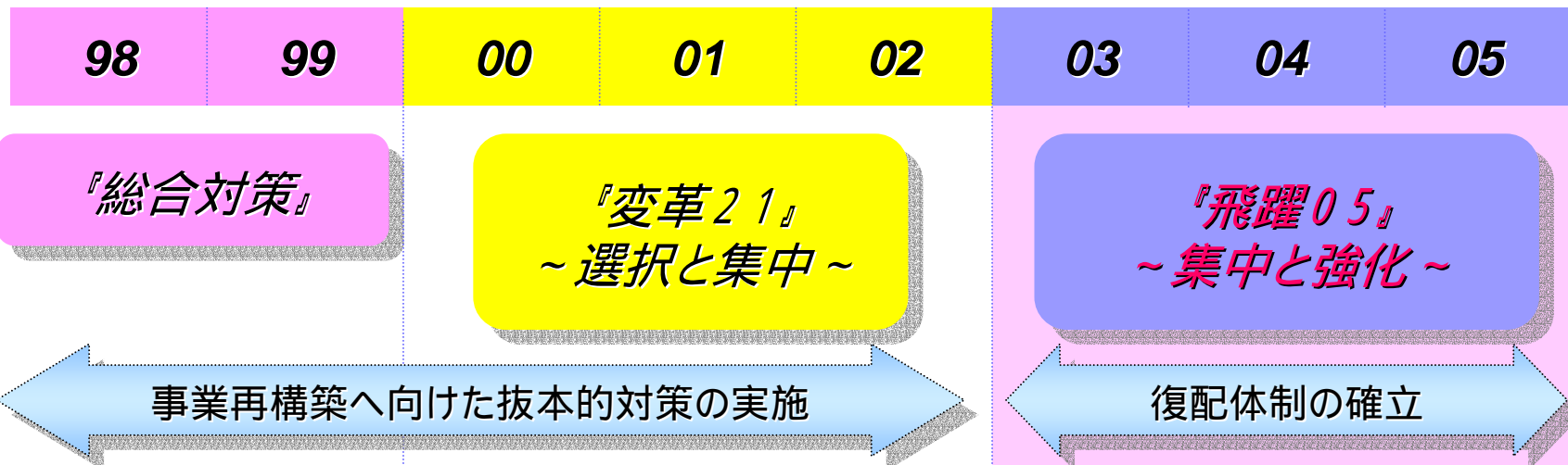
5つのコストダウン
繊維事業のスリム化
エネルギーコストダウン
生産性向上による製造原価低減
間接部門のスリム化
財務体質の改善

2. 計画と実績（連結ベース）

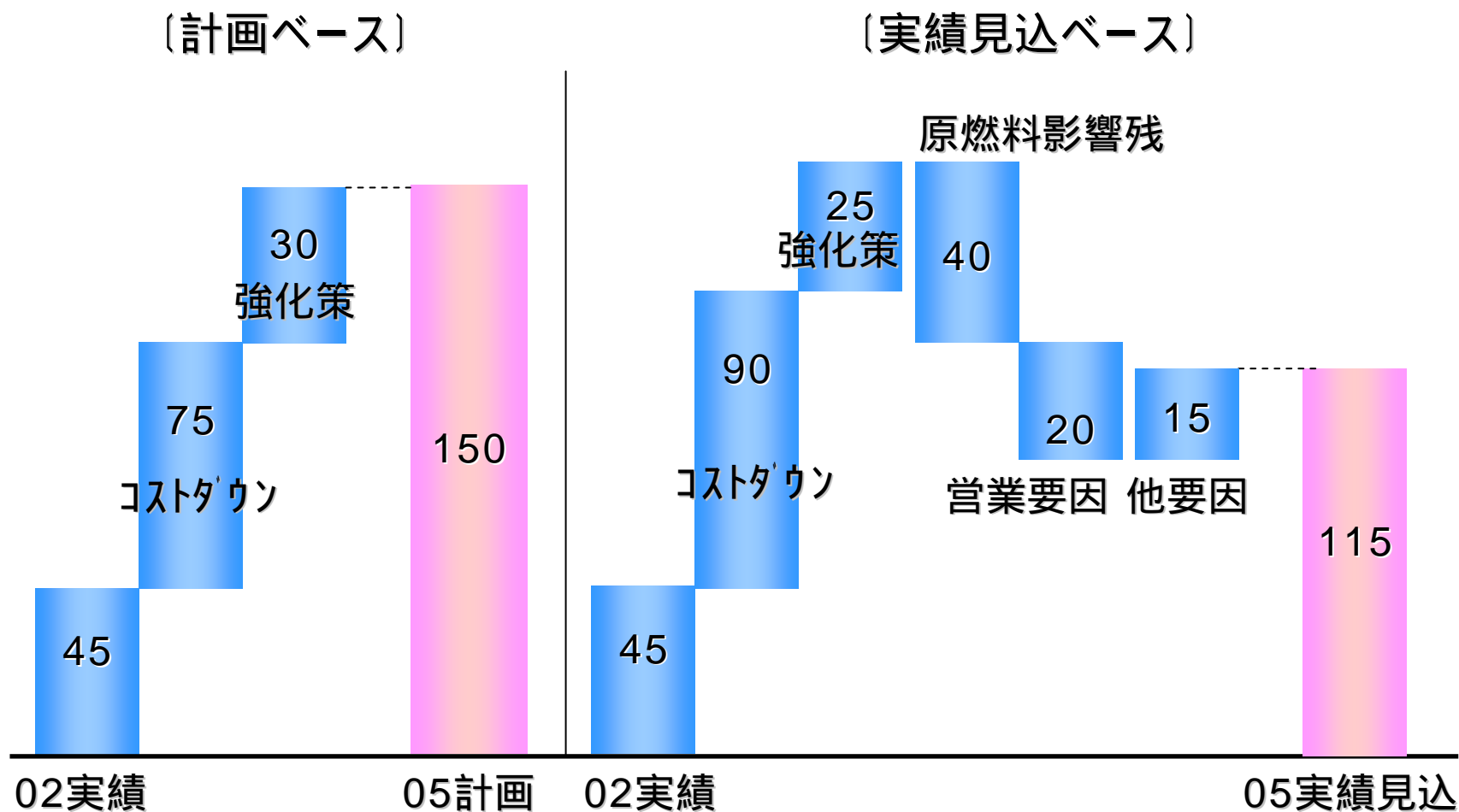
	02年度 実績	05年度		
		実績見込	計画	差異
売上高	2,337	2,200	2,400	200
高分子	566	639	650	
環境・機能材	349	279	400	
繊維	1,114	1,039	1,050	
生活健康・その他	308	243	300	
営業利益	82	145	200	55
高分子	68	86	105	
環境・機能材	22	29	45	
繊維	21	31	35	
生活健康・その他	16	34	35	
消去・全社	45	35	20	
経常利益	45	115	150	35
有利子負債	2,446	1,990	2,250	260

3. 中期経営計画と業績の推移

年度



経常利益増加要因（計画対比） <単位：億円>



4 . 成果と反省まとめ

成果

- 高分子事業の収益安定、コストダウン等で事業全般の収益構造の改善が進んだ。
- 環境与件変化もあったが、経常利益は年間100億円台を維持することができた。
- 有利子負債は前倒しで2000億円以下まで削減が進んだ。
- 計画を早めて復配を実施した。

4 . 成果と反省まとめ

反省

- 石化原燃料価格高騰などの環境変化への対応力が不十分であった。
- 生活健康・テラマック等の新規分野の育成は計画通りに進捗しなかった。
- 既存事業のうち、環境事業・不織布事業の拡販計画が未達となった。

・新中期経営計画『NP - 8』の概要

1 . 経営ビジョン

『New Progress (NP) - 8』

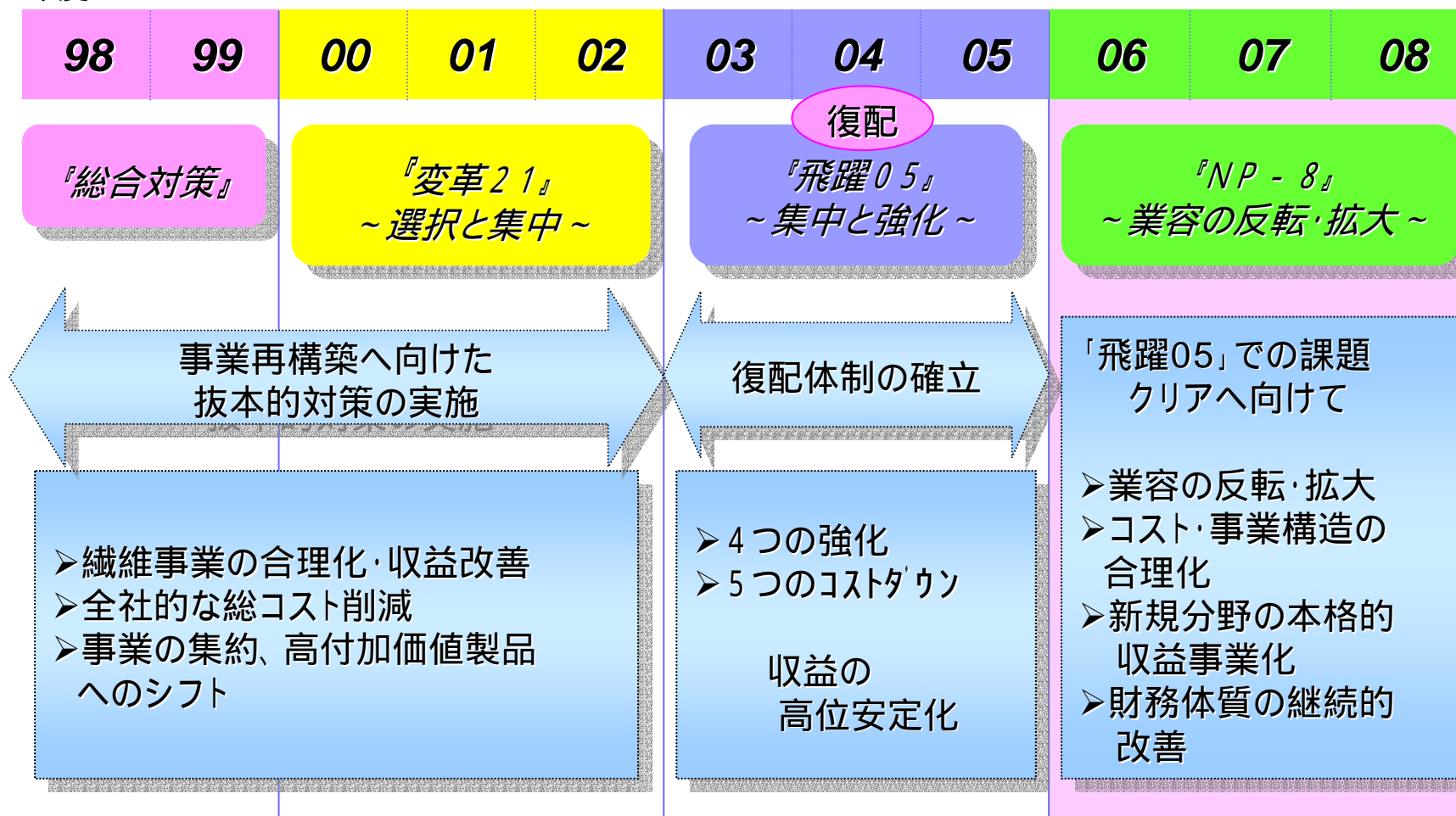
高収益企業に向けた 「新たなる前進」

[経営ビジョン]

人々の生活と環境に貢献し、
社会的存在感のある企業を目指す

2 . 新中期経営計画の位置づけ

年度



3 . 経営基本方針

➤ コア事業 / 連結業容の拡大

コアコンピタンスに根ざす事業、得意とする分野、独自性のある商品は徹底的に伸ばす

➤ 環境 / 生活関連事業の強化

全ての事業分野で、環境配慮型商品、健康・快適生活志向の商品を開発・提案していく

➤ 企業体質 / 株主資本の強化

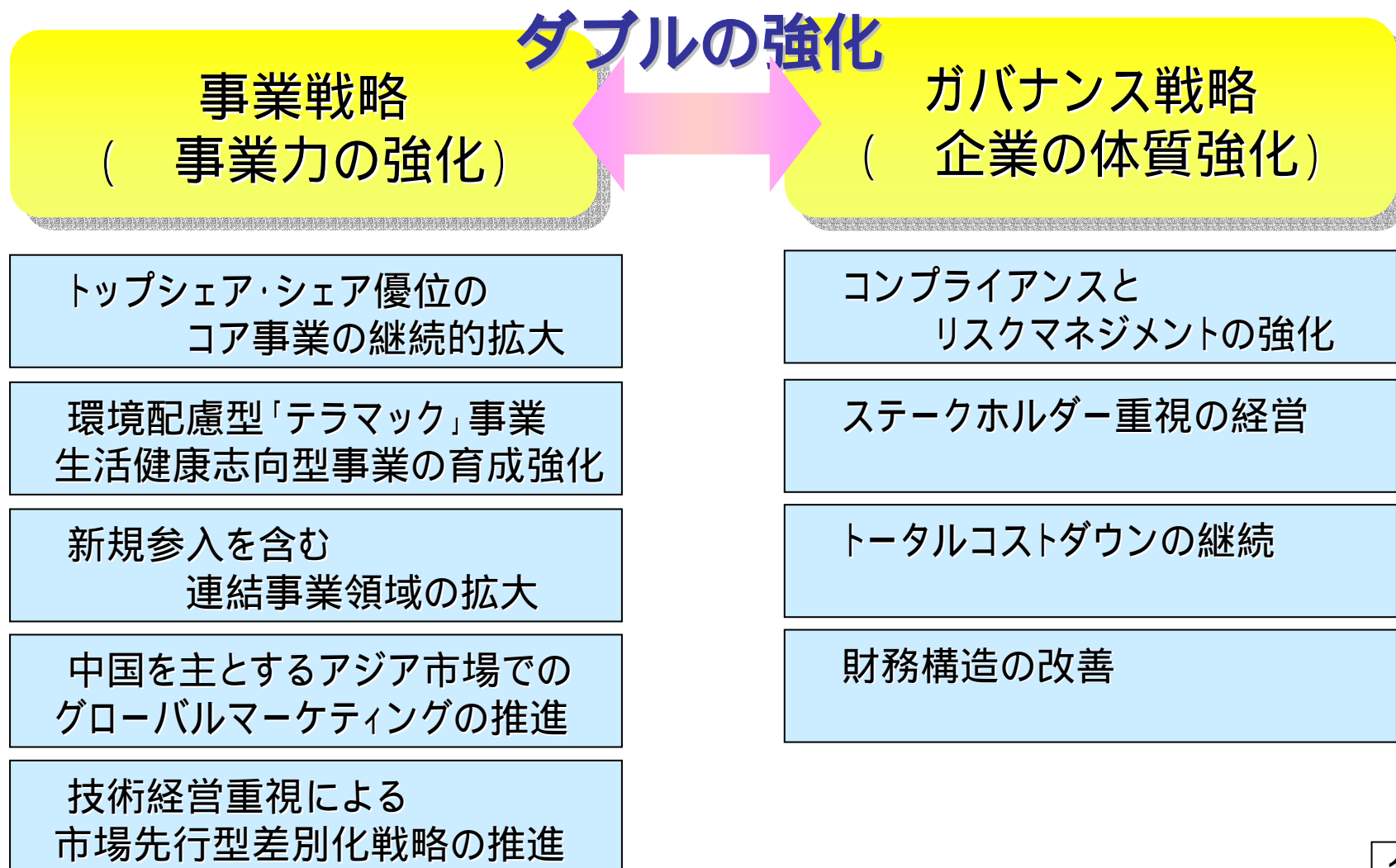
有利子負債削減を継続し、資本政策の検討も含め株主資本の充実を図る

4 . 連結経営数値目標（イメージ）

(単位:億円)	05年度 実績見込	08年度 計画
売上高	2,200	2,500
営業利益	145	195
経常利益	115	150
当期純利益	45	85

有利子負債	1,990	1,750
株主資本比率	10%	20%

5 . 基本戦略の概要



事業戦略と主要な事業分野の位置づけ

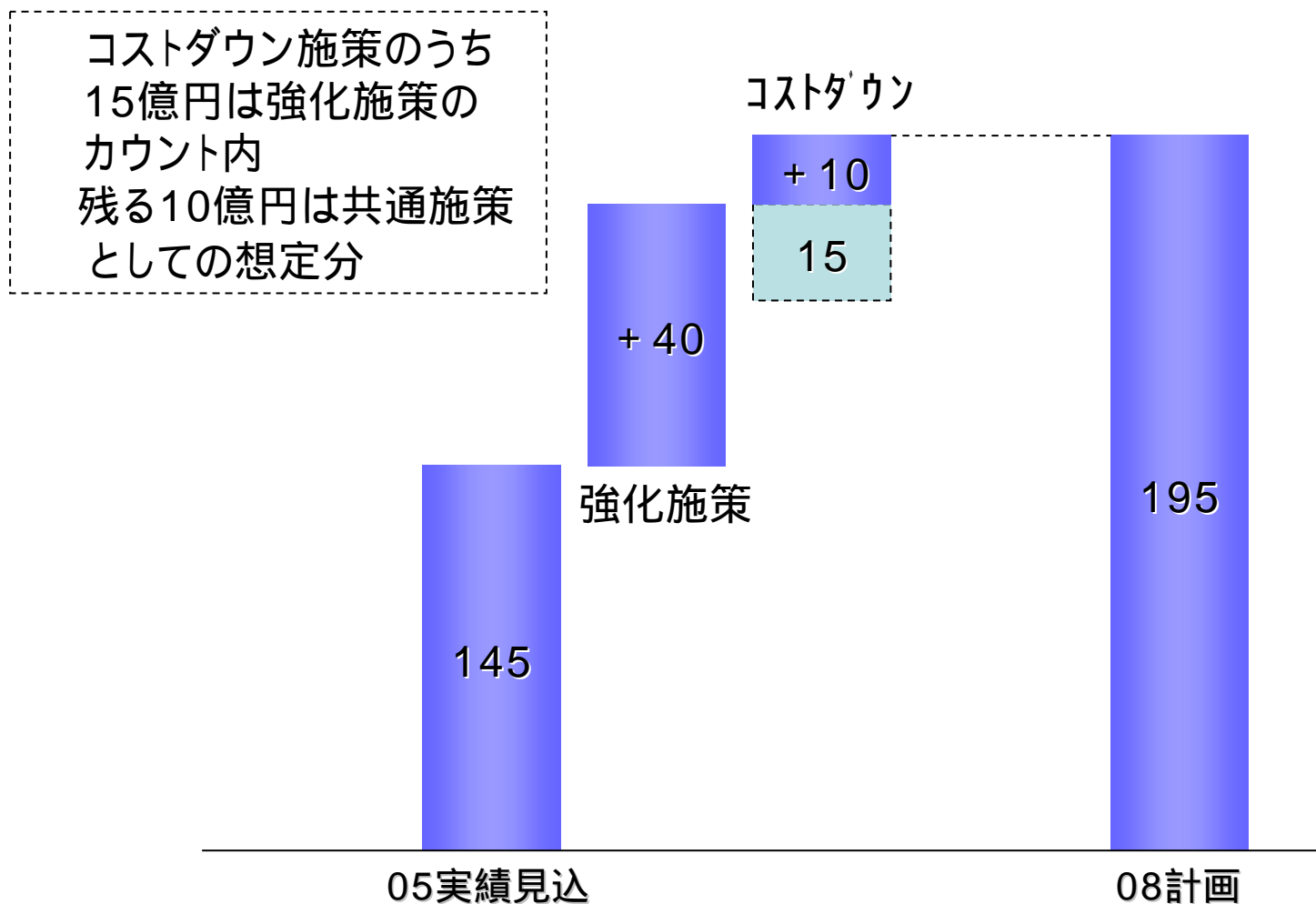
事業戦略 \ セグメント	高分子	環境 機能材	繊維	生活健康 その他
トップシェア・ シェア優位事業拡大	ナイロンフィルム ポリアリレート樹脂 不織布	ガラスビーズ		
環境配慮・生活健康志向型 事業強化	テラマック リサイクル事業	環境プラント 土壌調査 活性炭繊維	テラマック	健康補助食品 (ハナビラタケ、 セラミド等)
連結事業領域の拡大	各セグメント共通戦略			
グローバルマーケティング の推進	ナイロンフィルム拡大 強みのある商材の中国市場展開		中国とのオペレーション強化等	
市場先行型差別化戦略 の推進	PETフィルム ナノコンナイロン 共重合PET	ガラス繊維 ICクロス	差別化合繊 スーパービニロン TX製品企画	
《ガバナンス戦略》	トータルコストダウンの継続			

6 . 事業戦略の概要

事業セグメント別 収益内訳

(単位:億円)	売上高		営業利益	
	05年度 実績見込	08年度 計画	05年度 実績見込	08年度 計画
高分子	639	790	86	110
環境・機能材	279	340	29	41
繊維	1,039	1,100	31	43
生活健康・他	243	270	34	36
消去・全社			35	35
合計	2,200	2,500	145	195

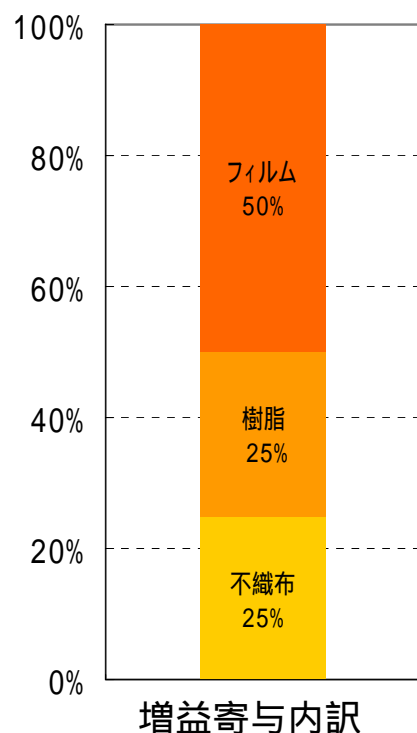
利益増加の全体内訳（営業利益） <単位：億円>



6 - (1) 事業戦略の概要 高分子事業

(単位:億円)	02年度実績	05年度見込	08年度計画
売上高	566	639	790
営業利益	68	86	110

増益
+ 24億円



〔方向感 コア事業として大きく拡大を図る〕

➤フィルム事業

ナイロンフィルムのアジア市場での販売拡大
機能性を付与したポリエステルフィルムの差別化展開

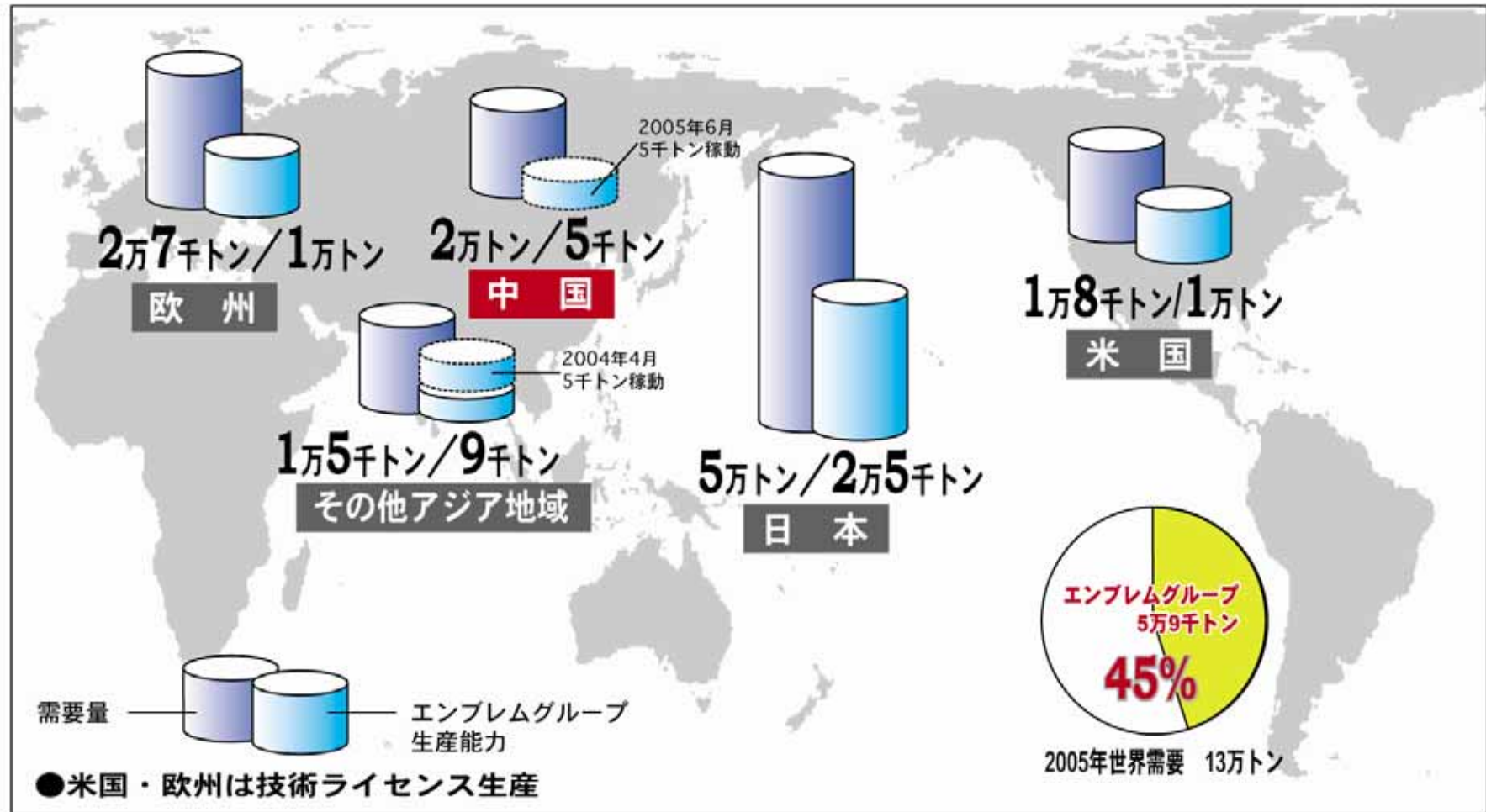
➤樹脂事業

ポリアリレート樹脂、ナノコンポジットナイロン、
共重合ポリエステル等、高機能樹脂の拡販

➤不織布事業

ポリエステルспанボンド、綿спанレースの既存分野
のシェア向上、新規分野の開拓

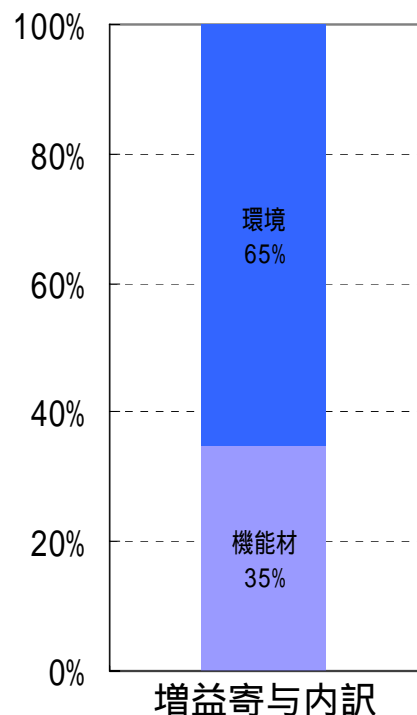
ユニチカナイロンフィルム（エンブレムグループ）の市場状況（当社推定）



6 - (2) 事業戦略の概要 環境・機能材事業

(単位:億円)	02年度実績	05年度見込	08年度計画
売上高	349	279	340
営業利益	22	29	41

増益
+ 12億円



[方向感 反転そして収益力向上へ]

➤環境事業

ユニークな水処理技術を中心とした環境プラントの受注拡大、産業廃棄物関連分野におけるコスト競争力強化を図る

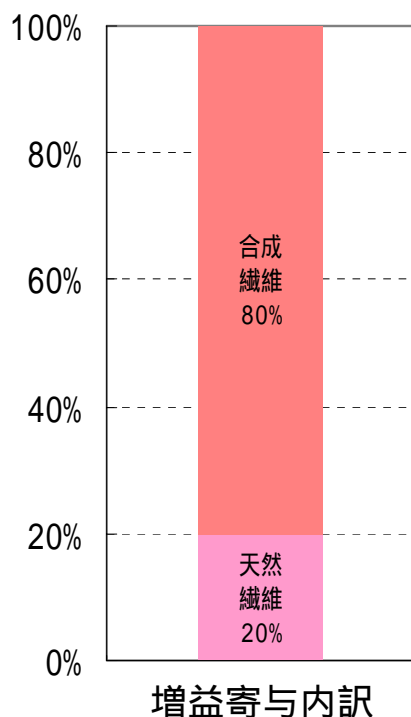
➤機能材事業

ガラス繊維の産業資材向け差別化商材展開、
極薄ICクロスの強化
ガラスビーズの反射材用途強化
活性炭繊維の環境、住宅分野等での高機能品展開

6 - (3) 事業戦略の概要 繊維事業

(単位:億円)	02年度実績	05年度見込	08年度計画
売上高	1,114	1,039	1,100
営業利益	21	31	43

増益
+ 12億円



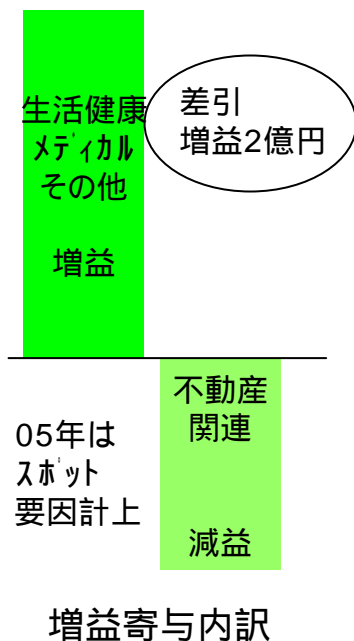
[方向感 構造改善一段落 更なる差別化展開へ]

- 合成繊維事業
生産効率化など徹底したコストダウンを進めるとともに資材分野へのシフト、差別化原織の拡大により収益の拡大を図る
- 天然繊維事業
素材開発と商品企画を軸とした新事業展開による収益の向上、ユニフォーム分野の強化を図る

6 - (4) 事業戦略の概要 生活健康・その他事業

(単位:億円)	02年度実績	05年度見込	08年度計画
売上高	308	243	270
営業利益	16	34	36

増益
+ 2億円



[方向感 生活健康事業の育成に注力]

➤生活健康関連

ハナビラタケ、こんにゃくセラミド等の独自の商材を活かし健康補助食品の積極的展開を図る
医用材料分野での拡販により売上の拡大を図る

➤その他

マンション事業等も含め、不動産関連事業への取り組みを継続する

テラマック事業展開の最近の状況

- 01. 9 ナノコンポジット技術の開発
- 02. 9 射出成型グレードの開発 (樹脂事業での本格展開)
- 02. 10 フィルム・シート分野での耐熱グレードの開発
- 04. 10 防災製品認定(繊維・不織布)
- 05. 1 ケナフ強化樹脂の実用化(パソコン部品向け)
- 05. 1 押し出し発泡用樹脂の開発
- 05. 3 愛・地球博開幕 各種テラマック使用製品が活躍
- 05. 7 ケナフ強化樹脂の開発(携帯電話筐体向け)
- 05. 8 ヒンジキャップの開発
- 05. 11 ガスバリア性ボトルの開発
- 06. 2 ケナフ強化樹脂の実用化(携帯電話筐体向け)

フィルム
繊維
スパンボンド

樹脂も加え
4素材展開へ

現在生産規模
約1千t/年

新中計では 年間
8千~1万tめざす

7 . ガバナンス戦略の概要

コンプライアンスとリスクマネジメントの強化

コンプライアンス体制の強化

環境与件変動リスク軽減に向けた対応

ステークホルダー重視の経営

適時適確な情報開示とその機会の多様化

トータルコストダウンの継続

生産革新活動、エネルギーコストダウンの継続

購買・物流コストの効率化

財務構造の改善

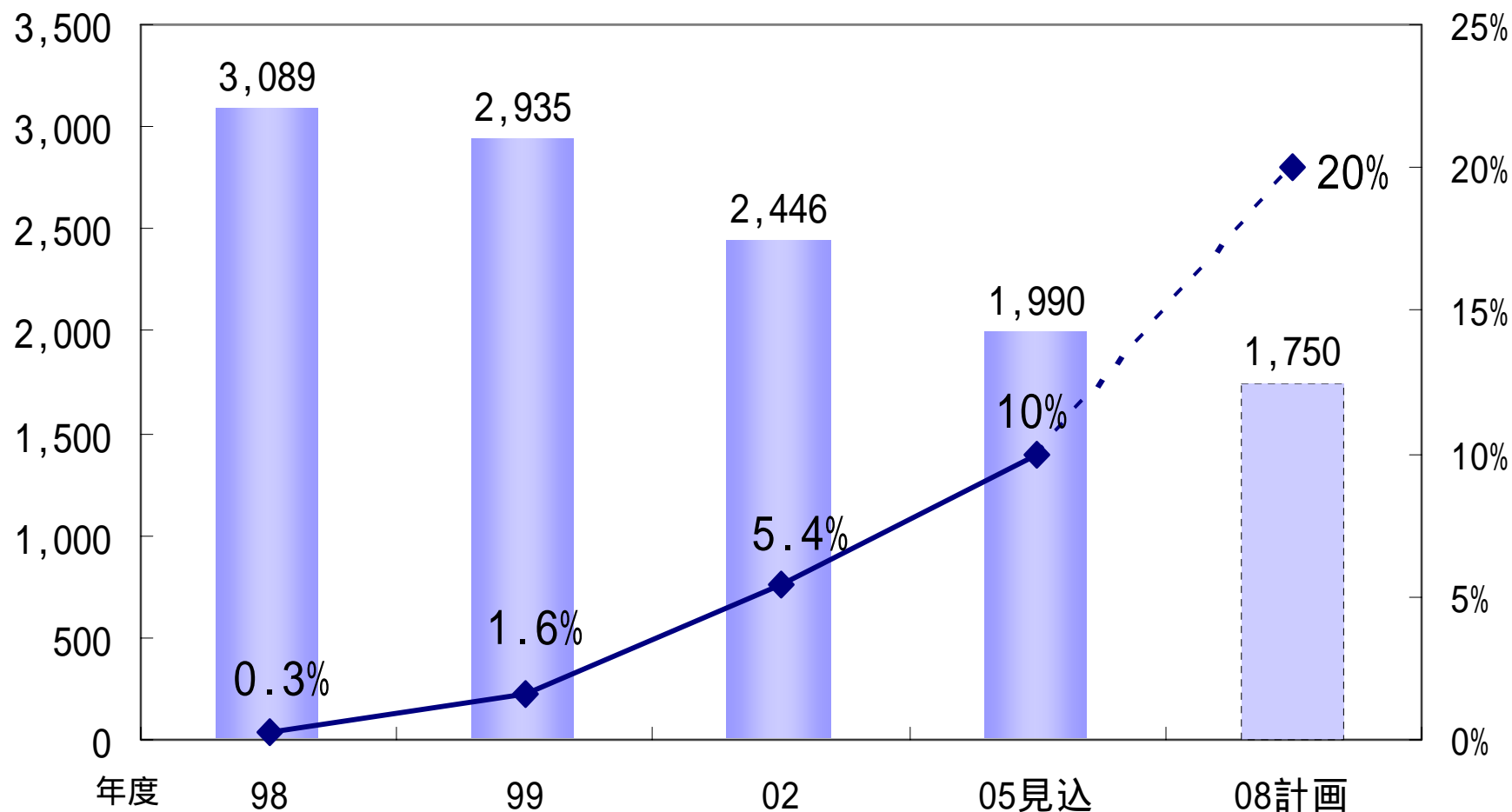
有利子負債の削減継続、資本政策等による株主資本充実

継続的・安定的配当、配当水準の充実

財務指標の推移

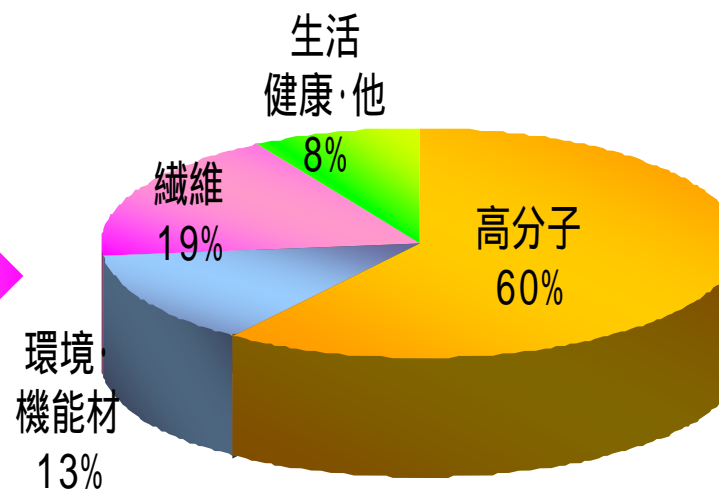
有利子負債(億円)

株主資本比率



8 . その他指標

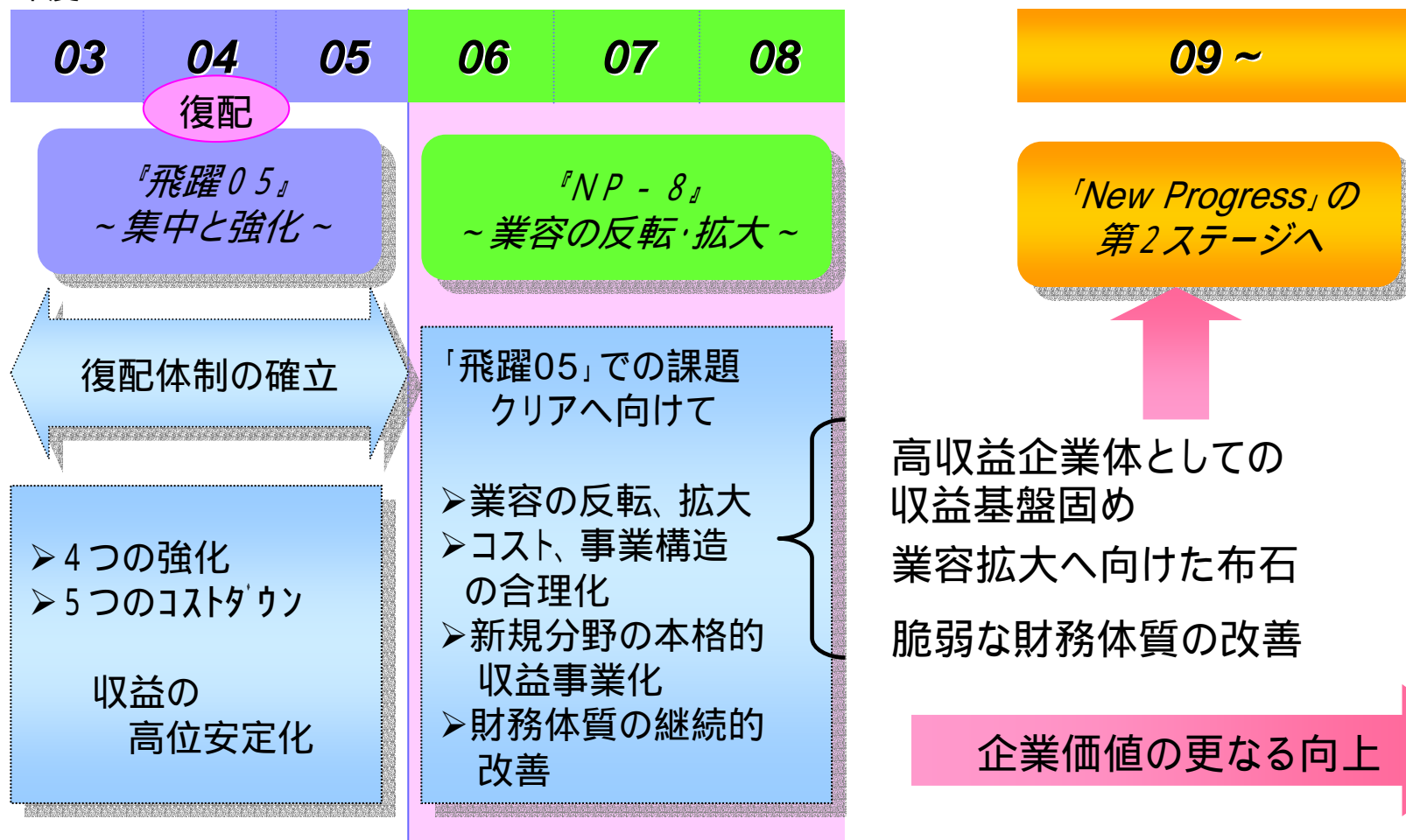
(単位:億円)	新中期計画 (三カ年)
設備投資	200
減価償却費	200
研究開発費	130



(単位:人)	2006.3月末 見込	2009.3月末 計画
グループ人員 (正従業員ベース)	4,950	4,850

9. 中長期イメージ

年度



ご参考

ユニチカファイバー(株)

(単位:億円)	05年度 実績見込	08年度 計画
売上高	350	360
営業利益	6	10

主要施策

テラマック繊維の拡販
差別化戦略の加速
トータルコストダウンの継続

ユニチカテキスタイル(株)

(単位:億円)	05年度 実績見込	08年度 計画
売上高	250	280
営業利益	4	7

主要施策

製品OEM、ユニフォーム事業
の拡大
海外生産基地の整備
リスク管理強化、コストダウン
の継続

ご注意

本資料中の業績予想・事業計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の結果は、今後の様々な要因によって異なる場合があります。